

植物ゲノム・遺伝子源解析センター 公開月例セミナー

とき 令和3年6月25日（金）16時～17時
ところ DS304講義室 対面講義形式

題目 「未成熟花粉からの個体再生」

講師 農学部教授 京 正晴 博士

講演内容概略

未成熟花粉からの個体再生という現象は、1964年に*Datura innoxia*の葯培養を通じて発見され、育種上利用価値のある半数体を作成するための基盤技術として種々の植物種で広く研究された。しかしその誘導機構は現在も解明であり半数体を利用した育種技術の普及にも至っていない。この現象の初期過程では特徴的な遺伝子発現が始まることがもっぱら注目されてきたがタバコ花粉培養系では培養開始24時間後に始まる栄養細胞特異的なDNA合成の存在が極めて重要であると考えられる。筆者の研究経緯を辿るとともに、関連する研究動向について近年の文献からも紹介したい。

主催：香川大学農学部 植物ゲノム・遺伝子源解析センター
(<http://www.ag.kagawa-u.ac.jp/phytogene/index.html>)